

# F Mアップルウェーブ 第119回放送番組審議会

開催日時	令和2年3月14日(土) 12:00~13:00
開催場所	土手町コミュニティパーク(弘前市土手町)
出席委員	委員長 佐藤 信隆、副委員長 鳴海 清彦 委員 佐藤 浩之、高村 智子、櫻山 史子、佐々木 裕和
会社側出席者	代表取締役社長:清藤 哲夫、専務取締役:一戸 勝美、取締役:倉田 正直 放送部統括マネージャー:花田 由香子、チーフ:玉田 雅規
議題	(1) 番組に対する意見要望 (2) 次回開催日について 7月11日(土)
議事の概要	<p>○ 各委員が質問と意見や気が付いた点を述べる形で議事が進行した。</p> <p>1) <b>課題番組</b> 『いのちによりそうゲートキーパー』</p> <p>① 毎年楽しみにしている番組。傾聴ボランティアの小田切さんが早口で聞き取りにくい場面があった。悩みがある人がそばにいるとき、悩みがあるときの傾聴への呼びかけをもっと段階的にしてほしい。パーソナリティのまとめがとても重要。</p> <p>② ゲートキーパーという言葉は知っていたがどういうものがわからなかった。ゲートキーパー、傾聴など、とても重要な話をコミュニティ放送でして、放送の役割を感じた。市の取り組みや体験談などもっと踏み込んだ部分の話を広げてほしい。</p> <p>③ 「神待ち」は初めて聞いた言葉だったが、どうすれば助けられたのか、など落としどころが無かったのが残念。ボランティアの石岡さんへのインタビューの場面で、インタビューというより会談になってしまっていた。もう少し整理して話を進めるべきだった。</p> <p>④ パーソナリティ二人の落ち着いた口調がとても聞きやすい。インタビュー内容や、経歴談の紹介は普段聞けない話なので続けてほしい。人のところに寄り添うことの難しさを痛感。石岡さんのいじめ体験を二人が傾聴している現場に同席しているように感じた。</p> <p>⑤ 難しい内容。「SNSでかんたんにやりとりができてしまう」のではなく、「やりとりが可能な生活環境に置かれている」のである。自分たちがどう選択するのか、という局面であることを理解しなければならない。自殺のない社会をみんなでつくっていく、という部分に関してもしっかり伝えるべきだったと思う。</p> <p>⑥ 傾聴のポイントについて放送で紹介していた。ゲートキーパーが悩みを聞きだす、吐き出させるものだが、その手法の紹介で「親身になって」という、よりわかりやすい言葉を使ってほしかった。2時間という番組は長いとも思うが、曲を間に挟むなど工夫されていた。傾聴の手法としてロールプレイのようなものを加えてもよかったのでは。</p> <p><b>【審議機関の答申または改善意見の公表】</b></p> <p>1) 議事録を本社に配備し、社内各部署に配布 2) FMアップルウェーブのホームページに掲載</p>